

呉工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	都市計画	
科目基礎情報							
科目番号	0251			科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	三村浩史「地域共生の都市計画 第2版」(学芸出版社)						
担当教員	篠部 裕						
到達目標							
1.都市計画の目的と意義、都市計画史の系譜の概要を説明できる。 2.土地利用計画、公園緑地計画、景観計画の目的と概要を説明できる。 3.市街地の開発・再開発、防災都市計画、地区計画などの目的と概要を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
都市計画の目的と意義、都市計画史の系譜		意義、都市計画史の系譜を適切に説明できる		意義、都市計画史の系譜を説明できる		意義、都市計画史の系譜を説明できない	
土地利用計画、公園緑地計画、景観計画		土地利用計画、公園緑地計画、景観計画を適切に説明できる		土地利用計画、公園緑地計画、景観計画を説明できる		土地利用計画、公園緑地計画、景観計画を説明できない	
市街地の開発・再開発、防災都市計画、地区計画		市街地の開発・再開発、防災都市計画、地区計画を適切に説明できる		市街地の開発・再開発、防災都市計画、地区計画を説明できる		市街地の開発・再開発、防災都市計画、地区計画を説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	都市は建築やインフラストラクチャなどから構成される、建築・地区よりも大きく地域・地方よりも小さな空間単位である。市民が安全で快適な生活を営むことができる都市空間を計画・形成するためには、その仕組みの存在についての専門知識を習得が不可欠である。本講義では、都市計画学の目的、これまでの都市史、都市計画制度、都市計画事業などの概要を習得することを目的としている。						
授業の進め方・方法	教科書および教科書の要点をまとめた講義メモを中心に授業を行う。 本科目は学修単位科目のため60時間の自学自習が必要であり、各回の授業の事前・事後学習以外にも自学自習を促すための演習課題(学修レポート)を適宜、実施する。						
注意点	「総合評価割合」の「合計」100%のうち60%以上到達すれば合格とする。試験については、中間試験35%と期末試験35%として扱う。 シラバスの参考に授業内容に該当する教科書を事前に予習しておく。 新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する場合があります。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、現代の人間居住と都市計画		現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。		
		2週	近代以前の都市づくり		近代以前の都市づくり、都市の形成について説明できる。		
		3週	近代以降の都市づくり		近現代都市の特質と課題、産業革命と理想社会論、近現代の都市計画論の概要を説明できる。		
		4週	地域計画と都市計画マスタープラン		地域計画と都市計画マスタープランについて説明できる。		
		5週	市街地の安全と防災都市づくり		市街地の防災、保全・改善事業について説明できる。		
		6週	土地利用計画、公園緑地計画		土地利用計画、公園緑地計画の目的や理念や手法について説明できる。		
		7週	中間試験		中間試験までの学習内容を理解している。		
		8週	答案返却・解答説明、都市交通計画		街路計画の手法や理念について説明できる。		
	2ndQ	9週	景観基本計画とアーバンデザイン		景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。		
		10週	コミュニティと居住地計画		市街地を開発する地域コミュニティ等による仕組みについて説明できる。		
		11週	市街地の開発・再開発と整備計画		市街地を開発する仕組み、土地区画整理事業、市街地再開発事業について説明できる。		
		12週	建築行為・開発行為と社会的コントロール		用途・形態規制の仕組みについて理解している。		
		13週	市街地の安全と防災都市づくり		市街地の防災、保全・改善事業について説明できる。		
		14週	地区計画などのミクロな都市計画、都市計画学習かるた		地区計画などのミクロな都市計画について理解している。		
		15週	期末試験		期末試験までの学習内容を理解している。		
		16週	答案返却・解答説明、レポート発表		指定された都市計画のテーマについて関連資料を調査し、レポートにまとめその要点を的確に発表できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。		4	前1
				近現代都市の特質と課題について説明できる。		4	前3

				近代の都市計画論について説明できる。	4	前3
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	4	前3
				市街地形成と都市交通のあり方について説明できる。	4	前5
				街路計画の手法と理念について説明できる。	4	前5
				日本の土地利用計画の仕組みについて説明できる。	4	前5,前11
				方法・制度の変遷について説明できる。	4	
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	4	前9,前12
				市街地を開発する仕組みについて説明できる。	4	前11
				土地区画整理事業について説明できる。	4	前11
				市街地再開発事業について説明できる。	4	前11
				地区計画制度について説明できる。	4	前14
				建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	4	前14
				都市と農村の計画について説明できる。	4	前4

評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	学修レポート	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	10	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0